

人文学部生に壬生町長から感謝状 9月の豪雨での地元支援で

茨城大学人文学部の歴史・文化遺産コースの田中裕教授が主催するゼミ所属の学生など



で組織する「みぶ車塚古墳発掘調査団」に対し栃木県壬生町の小菅一弥町長から感謝状が贈られた。

9月の関東・東北豪雨では、同町を流れる黒川の護岸が決壊し、住宅や国史跡として指定されている車塚古墳の周囲が冠水する被害に遭った。この際に、田中ゼミの学生らが食料を供出し、炊き出しなどを地元の避難民に提供するなどの救援活動を積極的に実施した。今回の感謝状は、11月21日に開催された「壬生町合併60周年記念シンポジウム」の席上、この活動に対して小菅壬生町長から贈呈された。

栃木県壬生町の車塚古墳の調査では、人文学部の学生が東京学芸大学の学生たちと「みぶ車塚古墳発掘調査団」を組織し、発掘に関わっている。調査を「仕事の間」として同時に「学びの間」とし、若い「活力」をまちに呼び込もうとする狙いがあり、田中ゼミは、昨年度から参加している。



先の豪雨では、同調査団の合宿先が10日未明から避難所となっていた。

(以上)

